

不定名詞句が主語となる中国語の受身文について

On the Chinese Passive Sentence with Subject
Acted by Indefinite Noun Phrase路 浩宇[†]

LU Haoyu

Abstract Normally, the subject of a Chinese passive sentence must be definite noun or noun phrase. However some passive sentences with subjects acted by indefinite noun phrases can be found in the corpus. This paper discusses the characteristics of patient subject from the perspective of “definite/ indefinite”. We can draw a conclusion that if a noun phrase can act as the subject of a passive sentence, which not only depends on the mode, but also the semantic meaning. At last, the pragmatic difference between passive sentences with subjects acted by definite noun phrases and that of with subjects acted by indefinite noun phrases will be summarized.

1.はじめに

中国語の「受身文」では一般に受け手を表す定(definite)の名詞句(以下 NP と呼ぶ)が主語に用いられ、不定 NP は通常受身文の主語にはならない。このため、次の(1a)や(2a)のような不定 NP が主語となる受身文は通常非文であると認識される。一方、(1b)や(2b)のような定 NP が主語となる文は受身文の典型例の1つと見なされる。

(1) a* 一个杯子被摔破了。

b 这(那) 个杯子被摔破了。

[この(その)カップが壊された。]

(2) a* 一本书被他撕破了。

b 这(那) 本书被他撕破了。

[この(その)本が彼に引き裂かれた。]

黄伯荣・廖序东(2003:125)では“被”構文の主語の性質について、“主語所表示的受事必须是有定的。例如，没有特殊的语境，不能说“一本书被他撕破了。”如果“一

本书”前面加上“这、那”成为有定的，就可以说了。”[主語の表す受け手は必ず定でなければならない。例えば、特殊な文脈がない限り“一本书被他撕破了。”とは言えない。もし“一本书”の前に“这”や“那”を加えて定とすれば成立するようになる。]と指摘されている。

本稿が問題とするのは、この“特殊的语境”という意味合いである。これは「受身文」の主語になるのが必ずしも定期的な NP に限られず、不定 NP の場合もあるということを示唆しており、実際のコーパスでも次の(3)や(4)のような数量詞を伴う不定主語を用いた受身文が観察される。

(3) 一位旅游者被人在海滩掐死并分了尸。

《读者文摘》1992年第6期)

[1人の旅行者が砂浜で絞め殺され、バラバラにされた。]

(4) 巴尔扎克讲，一个人不被女人爱是最令人悲惨的了。

(CCL)

† 愛知工業大学 基礎教育センター

[(1 人の) 人間が女性に愛されないことが、最も悲惨

なことであるとバルザックは言った。]

(3) では不定 NP の“一位旅游者”が、(4) では“一个人”がそれぞれ主語に用いられている。

いかなる場合に「受身文」の主語は不定表現となり得るのか、また不定 NP が主語となる受身文はどのような特徴を有するのか、という点を明らかにした先行研究は管見の限り、まだほとんど見当たらない。本稿は受け手主語の特徴に関して、「NP の定・不定」という立場から不定 NP が受身文の主語になる動機を明らかにし、不定 NP が主語となる受身文の語用的機能および定的 NP が主語となる受身文との相違を分析していく。

2. 不定 NP が用いられる主語について

2.1 「定」と「不定」の概念

「定」の概念に関しては、《現代语言学词典（第四版）》〔英〕戴维・克里斯特编 沈家煊译，商务印书馆，2000 年）に次のような記述が見られる。

“语法和语义学用来指一个具体的，可识别的实体（entity）；通常与无定对立。”〔統語論と意味論においては、具体的で、識別できる実体を指す。通常、「不定」と対立する。〕（p. 100）

英語では「定」成分は限定詞（the, this, my など）によって表される。一方、「不定」の概念は次のように記されている。

“语法和语义学用来指一个实体，无法具体识别；与有定相对。”〔統語論と意味論においては、具体的に識別できない実体を指す；「定」と対立する。〕（《現代语言学词典》p.180）

英語では、「不定」成分は不定冠詞 a あるいは不定代名詞である one や some によって表される。

陈平（1987）によれば、「定」と「不定」は対象が限定されるかどうかを表す要素であり、対象が限定されるものは「定」（definite）、されないものは「不定」（indefinite）である。「定」と「不定」の区別に際しては“受話人是否能够把名词性成分所指的事物与语境中存在的其他同类事物区分开来”〔受話者が名詞性成分の指す事物を文脈中に存在する他の同じ事物から区別しうるか否か〕という基準に必ず従わなければならない、可能であるものが「定」であって、そうでないものが「不定」となると同研究では指摘されている。

現代中国語においては、限定される既知の事物は文頭に、限定されない未知の事物は動詞の後ろに置かれる傾向がある¹。それゆえ、通常、SVO 構造の他動詞文では、主語

は定 NP によって、目的語は不定 NP によってそれぞれ担われうる。

「定」と「不定」の概念に関わる特殊な動詞述語文として次のような三種類が挙げられる。

① 存現文

(5) 张家昨天丢了一辆自行车。(作例)

[張家では昨日自転車が 1 台なくなった。]

例 (5) の目的語（“一辆自行车”）のように、存現文の目的語の多くは不定であり、通常は裸の名詞ではあり得ず、前に数量詞またはその他の修飾語を伴う。

② “把”構文

(6) 昨天他把电视机修好了。(作例)

[昨日彼はテレビを直した。]

“把”構文が事物に対する処置や影響を表すことから、処置や影響を受けるところの事物即ち“把”の目的語は一般的に定であり、不定のものではない。この事物になるものの多くは前文で既出のものか、あるいは発話者と受話者の双方にとって既知のものである。

③ 受身文

(7) 他的钱包被小偷偷走了。(作例)

[彼の財布はスリに盗まれた。]

“把”構文の目的語と同じように、受身文の主語は処置や影響を受ける事物として存在しており、一般的には定でなければならない既知のものであるとされている。

以上の三パターンは「定」と「不定」の概念に関わる典型例であるが、すべての実例が以上の基準に当てはまるわけではない。次節では、不定 NP が主語になる受身文を分類し、それぞれの文法的特徴を検討していく。

2.2 不定 NP 主語の受身文の分類

CCL コーパスでは、受身文で用いられる不定 NP の主語として「一」+量詞+名詞と「裸名詞」²の二つのタイプが観察される。筆者は主語の機能によって、「一」+量詞+名詞の形式を用いる受身文をさらに次の二種類に分類する。

① 「一」+量詞+名詞が特定（specific）である場合

ここで、「定・不定」と「特定・不特定」の概念を対照しながら、これらの相違点をはっきりしておく。陈平（1987）では、「特定・不特定」（specific・nonspecific）の概念について、次のように述べられている。すなわち、“发话人使用某个名词性成分时，如果所指对象是某个在语境中实际存在的人物，我们称该成分为实指性成分。反之，如果所指对象只是一个虚泛的概念，其实体在语境中也许存在，也许不存在，我们称该成分为虚指成分。”〔発話者はある名詞

不定名詞句が主語となる中国語の受身文について

性成分を使う際、その名詞性成分の指す事物が文脈において実際の存在する人物・事物である場合、我々はその名詞性成分を特定である成分と称する。これに対し、その名詞性成分の指す対象が虚的な概念であり、その実体は文脈において存在するあるいは存在しない場合、我々はこの名詞性成分を不特定である成分と称する。]また、「定」と「不定」の区別する基準として、受話者が名詞性成分の指す事物を文脈中に存在する他の同じ事物から区別しうるか否かという基準によるのに対し、「特定」と「不特定」の区別する基準は受話者に関係せずに、発話者の意図に関わる。さらに、「特定」と「不特定」の区分は「不定」成分のみであり、「定」成分はすべて「特定の」であると同研究が主張している。次の例を見てみる。

- (8) 近日, 一个 24 岁的山东小伙, 在合肥二环路上被一辆大货车撞倒。

(新华社 2004 年 8 月份新闻报道)

[先日、山東省出身の 24 歳の男性が合肥二環路でトラックに撥ねられた。]

- (9) ……一把 1716 年制的小提琴被一演奏家用 73 万美元买走。 (《读者》(合订本) 2003 年)
[(1 挺の) 1716 年製のヴァイオリンが (1 人の) 演奏家に 73 万ドルで購入された。]
- (10) ……一位被研究人员称作老总的教授引导我走进一座浅黄色的楼房。 (陈信春 2001:59)
[研究者たちにボスと呼ばれる教授が私を浅黄色のマンションに導き入れた。]

中国語の名詞が個別の具体的な事物に言及する場合、一般に数量詞の付加を必要とする旨、大河内 (1985) や古川 (2001) 等で指摘されている。(8) ~ (10) の主語が表す事態は、発話者がいる現実の空間における個別の事物の実体として存在している。例えば、例 (8) の主語である“一个 24 岁的山东小伙”は発話者にとって、すでに了解されている者であるため、基本情報 (例えば、出身地、年齢等) は発話者には把握されている。これに対し、受話者にとって必ずしも了解されている者とは限らない。このため、名詞“小伙”の前には修飾語 (“24 岁”と“山东”) が付加され、発話者によって新情報として導入されている。例 (9) もこれと同様で、現実空間においては、「ヴァイオリン」と呼ばれる具体物が多く存在しているものの、発話者が話している「ヴァイオリン」はそれらの中の唯一のものである。

受身文の主語になる文成分について、杉村 (1998) は、“被动句句首的受事成分所表示的事物应该是先于动作的。我们应该作广义的理解和运用, 它不仅应当包括实际上已经

出现、已经存在的人或事物, 也应当把那些实际上尚未存在, 但是说话人心中早已有之的人或事物包括在内。”[受身文の文頭にある受動者が表す事物は動作より先に存在するものでなければならない。(受身文の主語に関しては、) 広義に理解し、運用すべきである。受身文の主語にはすでに出現したり、存在したりする人物・事物を含むだけでなく、まだ存在しないものの、発話者の心の中にある人物・事物をその中に含めて理解すべきである。]と主張している。不定 NP の表す人物・事物が特定である受身文には、已然の出来事³を表す述語が多いことが観察される。例 (8) の“一个 24 岁的山东小伙”や例 (9) の“一把 1716 年制的小提琴”等の主語は形式上では不定の形であるものの、実際にはその動作が行われる前にすでに存在しているものであり、特定のものを見なすことができる。すなわち、名詞が受身文の主語になれるか否かについては、形式上の「定・不定」だけでは判断することができず、意味上の「特定」と「不特定」についても考慮しなければならない。

- ② 「一」+量詞+名詞」が総称である場合

- (11) 在中国, 一个篮球运动员, 无论他如何出色, 都不会像在美国一样, 被人看成大人物。 (《姚明自传》)
[中国では、バスケットボール選手はどんなに優れていても、アメリカでのように偉大な人物とは見なされない。]
- (12) 巴尔扎克讲, 一个人不被女人爱是最令人悲惨的了。 (再掲 (4))

(8) ~ (10) に対し、(11) と (12) の主語が表す事態は「バスケットボール選手」、「人間」など抽象的な総称表現であり、発話者がいる現実の空間とリンクする特定の人物・事物はそこには存在しない。例 (11) は中国のバスケットボール選手という職業についてのコメントであるため、主語の“一个篮球运动员”が指しているのは特定のバスケットボール選手ではなく、この職業に就いている人全般である。

3. 「一」+量詞+名詞」が特定である場合⁴

3.1 語用的機能

ここで問題になるのは、なぜ不定 NP が定 NP の代わりに受身文の文頭に立ち、NP がどんな場合に不定の形式で表されるのかということである。

受身文の意味的特徴として受け手主語の存在状態や、主語が影響を受けてから起きた変化を描写・叙述することが挙げられる。受け手である主語は一般的に発話者と受話者双方にとって確認できるあるいは了解される人物・事物で

なければならない。このような主語があつて初めて、述語のコメントの基盤が出来上がる。受身文の文頭に立つのは必ず既知の人物・事物でなければならないという特徴が顕著に文法構造に反映された場合には、定 NP が主語として用いられることとなる。例えば、

- (13) 小张的孩子被人打了。(作例)
[張さんの子供は誰かに殴られた。]

(13) の例文では“小张的孩子”が主題として提示され、コメントの対象であるため、焦点として文頭に立てられている。前述のように、通常定 NP は発話者と受話者の双方とも確認できる対象である。これは受身文の主語が既知のものでなければならない意味的特徴と一致している。一方、不定 NP が用いられる受身文は新聞・雑誌あるいは小説にしばしば見られ、出来事を客観的に描写したり説明したりする。これらの文の語用的機能は「人物・事物の動作・行為」そのものにコメントをするというより、発話環境や場面を全体的に描写することであり、受け手の焦点化を特に要求しない。この場合、受け手は不定の形式となって背景化されるものと考えられる。例えば、

- (14) 近日, 一个 24 岁的山东小伙, 在合肥二环路上被一辆大货车撞倒。(再掲 (8))
(15) 我亲眼目睹, 一个孩子被从火里拖出来……。
(《战争与和平》)
[(1 人の) 子供が火災現場から引きずり出されるのを私は目のあたりにした。]

- (16) 我看到一个茶杯盖被震得从杯子上掉下来……。(CCL)
[私は (1 つの) ティーカップの蓋が揺すられてティーカップから落ちたのを見た。]

新聞の見出しである例 (14) はある交通事故についての背景となる情報を報道したものである。この文における時間、人物、場所等のすべての情報は読者にとって新情報である。また、例 (15) は発話者が火災を直接見た場面を説明するものである。例 (14) と (15) は事実や状況の説明という点で共通している。例 (16) は発話者が何を見たのかを説明している。発話者は自分のいた環境に何らかの出来事が生じたことを客観的に描写し、蓋がどのような影響を被ったかには関心を持っていない。しかも受話者にとって“一个茶杯盖”は必ずしも事前に了解された物ではない。このため受け手である蓋がわざわざ焦点化される必要はなく、「不定」の形式となって背景化されることになる。

3.2 統語的特徴

不定 NP が主語となる受身文には、文末に助詞の“了”が付加されない形式がしばしば見受けられる。この点が

定 NP が主語となる受身文と相違する統語的特徴の 1 つであると言える。

次に、定 NP が主語となる受身文を通して不定 NP が主語となる受身文の意味特徴を見てみる。

- (17) 卓玛被解放军救活了。(劉月華 1991 : 644)
[チュオマは (意識を失っていたが,) 解放軍によって救われた。]
(18) 突然, 办公室的门“咣当”一声被撞开了。
(劉月華 1991 : 644)
[突然、事務室のドアがバタンと音を立てて開けられた。]

例 (17) と例 (18) はいずれも定 NP が主語となった受身文であり、文末に「変化」を表す助詞の“了” (いわゆる“了₂”) が付加されている。文末に用いられる“了”の機能について、呂叔湘 主編 (1992:218) では、事態に変化が起きたことや今にも変化が起きることを認め、文を完結する働きをもつことが指摘されている。例 (17) の主語 (チュオマ) は発話者だけでなく受話者にとっても既知の情報であり、受話者が関心を抱くのは「気を失ったチュオマの意識が戻るかどうか」という点についての情報である。例 (17) はチュオマが昏睡状態から意識が戻ったようになる動的過程を表し、「受け手が仕手からの影響を受けて変化が起きる」という受身文の意味的特徴と適合し、自然な文である。例 (18) も同様、主語である“办公室的门”は述語のコメントする焦点として文頭に立っている。受動者の力によって、ドアは以前の閉じていた状態から開いた状態になり、動的変化は文末にある“了”によって表される。例 (17) と (18) は受け手の変化が時間順によって展開され、動的変化という点で共通する。

次に、不定 NP が主語となる受身文の場合を見てみる。

- (19) 一位旅游者被人在海滩掐死并分了尸。(再掲 (3))
(20) 在昨天的枪击案中, 一名妇女和一名 13 岁的中学生被打伤。(新华社 2002 年 10 月份新闻报道)
[昨日の銃乱射事件では、女性 1 名と 13 歳の中学生 1 名が撃たれ怪我した。]
(21) 3 日晚, 一名 72 岁的老人在华盛顿市内步行时被枪手打死。(新华社 2002 年 10 月份新闻报道)
[三日の夜、72 歳の老人 1 名がワシントン市内を歩いていたところ射撃者に撃たれて死亡した。]

以上の三つの例は雑誌やニュースから引用したものである。いずれも文末に“了”は付いていない。前述のように、不定 NP が主語となる受身文の語用的機能は受け手の事態そのものの動的変化を強調することではなく、事の叙述や場面を静的に描写することであるため、ここでは、変化を

不定名詞句が主語となる中国語の受身文について

強調する“了₂”は付加されていない。

不定 NP が主語となる例 (19) は目の前にある場面に対する報道である。主語である“一位旅游者”は受話者が了解していない人物であり、この文の焦点ではない。述語の表す出来事は写真のように凝固した場面として存在している。発話者はすでに発生した事件を客観的に報道するにとどまる。例 (20) 及び (21) も同様に、述語が表すのはすでに発生した銃乱射事件である。発話者の目的は時間、人物、場所等の事件の基本情報を受話者に伝えることであり、特定の人物・事物の説明ではない。このため、ニュースや新聞に使用される受身文の不定 NP からなる主語を定 NP に置き換えると不自然になる。例えば、

(20) 在昨天的枪击案中，一名妇女和一名 13 岁的中学生被打伤。

(20)' ²在昨天的枪击案中，他们被打伤。(作例)

(21) 3 日晚，一名 72 岁的老人在华盛顿市内步行时被枪手打死。

(21)' ³3 日晚，他在华盛顿市内步行时被枪手打死。(作例)

例 (20)' と (21)' は例 (20) と (21) の主語を定成分に変更したものである。例 (20)' と (21)' の容認度については、非文にならないものの、例 (20) と (21) ほど座りがよくないと複数のインフォーマントは言う。例 (20) と (21) の主語が不定から定になると、焦点化され、述語のコメント対象となる。しかし、例 (20)' と (21)' は焦点を説明する情報が足りず、完結しない。例えば、例 (20) の主語を不定 (一名妇女和一名 13 岁) から定 (他们) にすると、受話者が注目する対象となる。しかし、“了”が付加されていない (20)' には状態変化のニュアンスが含意されていないために、文自体が完結せず、「彼は銃で撃たれて怪我した後どうなったのか?」という疑問を受話者が抱く可能性がある。文を言い切りにするためには、事態の発展を表す内容が付加されなければならない。定 NP が主語となる例 (20)' と (21)' は文法規則には適合しているものの、やはり座りが悪く、特にニュースや新聞で、事件の報道や場面説明をするのには適切ではないと考えられる。

4. 不定 NP の情報について

通常、“一本书被他撕破了。”のような表現は受身文としては不成立とされるが、比較対照のニュアンスが表される文脈においては成立する。例えば、

(22) a.*一本书被他撕破了。(再掲 (2a))

b.一本书被他撕破了，别的东西没问题。(作例)

[本が 1 冊彼に引き裂かれたが、他のものは大丈夫だ。]

(22a) は情報量が少なく非文である。結果補語である“破”とアスペクト助詞の“了”がいずれも已然の出来事を表している。通常、これらが付いている述語動詞には既知の処置対象が用いられる。不特定である主語はこれらと矛盾するため、(22a) は単独では成立しない。(22b) は事物を比較する形となっており、成立する。主語の“一本书”は“别的”と対比関係になり、目の前にあるたくさんのもので際立つ存在となる。つまり、新たな情報が追加された (22b) は主語 (“一本书”) が (22a) の不特定なものから (いくつかのものから取り出された) 個別のものに変化し、形式上では不定であるものの、意味上では特定のものを表すことになり、自然な表現となる。すなわち、以上のように情報量の増加は抽象的なものを具体化し、不特定なものから特定のものへと変化させる可能性があると考えられる。

基本的に、発話者が読者の知らない状況や場面を客観的に説明する際には、なるべく多くの情報を伝えなければならない。これらの情報は主に定語や状語として文構造に反映されることになる。状況や場面の基本情報が正確に伝達されるにはこれらの修飾語が不可欠な条件であり、省略することはできない。例えば、

(23) 一把 1716 年制的小提琴被一演奏家用 73 万美元买走。
(再掲 (9))

[(1 挺の) 1716 年製のヴァイオリンが (1 人の) 演奏家に 73 万ドルで購入された。]

(23)' *一把小提琴被一演奏家买走。

例 (23) はオークションを報道した文である。「1716 年製」や「73 万ドル」等の情報はヴァイオリンの歴史の長さや価格を受話者に客観的に伝える働きをしている。修飾語を削除した例 (23)' は情報伝達の役割を失い、完結しない文になる。情報が不十分であるため、これでは受話者が「どのようなヴァイオリンなのか」、「誰が買ったのか」、「どこで生じたことなのか」等の疑問を抱くことになってしまう。要するに、(23) には色々な情報が入っており、“一把”の表す不特定という要素は背景化しているものの、そうしたものがなくなった (23)' では不特定という要素が焦点化されるために非文になる。よって、不定 NP の表す人物・事物が特定である場合、文を言い切りするには、発話者が数多くの情報を用い、背景化されてしまう主語に関する情報を補い、受話者に詳しく説明しなければならないのである。

5. おわりに

先行研究では、受身文の主語になる NP は通常は定でなければならないとされているが、以上考察してきたように実際には不定 NP が主語となる受身文も少なからず存在している。本稿では「NP の定・不定」という立場から不定 NP が主語となる受身文の特徴を考察した。不定 NP が主語となる受身文においては、「一」+量詞+名詞の構造は特定の物を指す場合と総称的な物を指す場合の二種類に分けられる。形式的には不定 NP である「一」+量詞+名詞の構造は意味的には特定であるものを表す。このような不定 NP が用いられる受身文は受け手が焦点として立てられることを特に求めず、通常「事態に変化が起こる」ことを表す「了」が文末に用いられなくても成立する。不定 NP は定 NP と異なり、受身文に特有的な語用的機能をもたらす。すなわち、人物・事物の動作・行為に対して、コメントするのではなく、環境・場面を全体的に描写すると同時に、事実を客観的に報道するという語用的特徴である。

また、このような受身文は発話者が被害を被った受け手を新情報として捉え、受話者の関心を喚起することを目的とするため、社会の諸分野における事件、事故などを忠実に伝えることを役割とする新聞や雑誌、ニュースなどに用いられることが多い。

[注]

- 例えば、“在”及び“有”を用いる存在表現がこれに相当する。
例：a 我的书在桌子上。→主語：定 NP
[私の本は机の上にある。]
b 桌子上有一本书。→目的語：不定 NP
[机の上に一冊の本がある。]
- 次のように裸名詞が主語になる受身文の実例が見られる。
例：回想十年前，小学生被淹没在书堆、题海中。
(1994 年报刊精选)
[十年前を回想すると、小学生は書物の山と練習問題の海に埋められていた。]
陈平(1987)は、中国語の裸名詞は定成分を表すだけでなく、不定成分を表すこともあると述べている。
例：a 客人从前门来了。→主語：定
[お客さんが正門から来た。]
b 前门来了客人。→目的語：不定
[正門にお客さんが来た。]

- 裸名詞が用いられる受身文の主語はどのような場合に特定であるか、どのような場合に不特定であるか。また、文法特徴の点では、裸名詞が用いられる受身文の主語と「一」+量詞+名詞が用いられる受身文の主語の間にどのような相違が存在するかについては今度の課題としたい。
3. 本稿ではすでに生じた出来事を、これ以降便宜的に「已然の出来事」と呼ぶ。
 4. 本稿では紙幅の都合上、不定 NP の表す人物・事物が総称的である場合についての考察は十分にできなかった。今後の課題としたい。

[主要参考文献]

- 木村英樹：「存在文」が表す〈存在〉の意味および‘不定’の問題，漢語与漢語教学研究，第 2 号，東方書店，東京，2011。
- 大河内康憲：量詞の個体化機能，中国語学，232 号，1985。
- 呂叔湘主编：現代中国語用例辞典（牛島徳次 監訳）（《現代汉语八百词》の邦訳），東方書店，東京，1992。
- 劉月華主编：現代中国語文法総覧（下）（相原茂 監訳）（《实用现代汉语语法》の邦訳）くろしお出版，東京，1991。
- 陈平：释汉语中与名词性成分相关的四组概念，中国语文，第 2 期，1987。
- 陈信春：介词运用的隐现问题研究，河南大学出版社，郑州，2001。
- 李金莲：日汉被动句对比研究，山东大学出版社，济南，2012。
- 李珊：现代汉语被字句研究，北京大学出版社，北京，1994。
- 古川裕：外界事物的“显著性”与句中名词的“有标性”，当代语言学，第 4 期，2001。
- 黄伯荣・廖序东：现代汉语（下），高等教育出版社，北京，2003。
- 内田慶市：汉语里的“无定名词主语句”，福井大学教育学部紀要 I，第 37 号，1989。
- 祁峰：汉语焦点的类型及其相关问题，汉语学习，第 2 期，2013。
- 杉村博文：论现代汉语表“难事实现”的被动句，世界汉语教学，第 4 期，1998。
- 杨凯荣：从表达功能看“了”的隐现动因，汉语学习，第 5 期，2013。
- 中国語用例出典：北京大学汉语语言学研究中心 CCL 语料库

(受理 平成 27 年 3 月 19 日)